

日本語教室開催事例

02

日本語教室をつくりたいけど、どうすればいい？
 - 県内で近年立ち上がった日本語教室をご紹介します！

事例02 尾花沢市日本語教室

※2025年度の実施状況

主催

尾花沢市商工観光課

形式

教室型

1つのクラスを基本的に1人の教師が担当して授業を行う形式

3レベル開講（講師3名）

時間

火曜日18:30 - 20:00

週1回（5月～11月）、年間20回

参加費

無料 ※令和7年度山形県日本語教室開催支援事業費補助金を活用

参加者

12名（ベトナム、ネパール、中国など）

教材

国際交流基金『いろどり』を使用
教材を軸に各講師が授業を準備

教材選びや進め方、クラス分けなどは日本語教育コーディネーターもサポートしました。



会話練習はいつも笑顔が
絶えず楽しそう！

主催者の声

開催の背景は？

—外国人材を受け入れている企業から、日本語は勉強してきているが社内でのコミュニケーションが十分にとれないという声が寄せられたことを受けて開催に至りました。

開催・運営で大変だったことは？

—講師探しです。総括コーディネーターに相談し講師を紹介してもらいました。講師が決まってからは、教室の内容をお任せすることができ、運営の面で大変助かりました。

学習者の声

国では日本語の文法を勉強しましたが、会話はあまり練習しませんでした。日本語教室でたくさん会話を練習して、話せるようになりました。

講師の声

会社や日常生活の中で実際に使えるような場面を設定するよう心がけています。学習者が、学んだ表現を実際に使ってくれたときが、とてもうれしく、やりがいを感じます。

外国人住民や社員が、周囲の人と日本語でコミュニケーションし、自己実現できる環境づくりは重要です。日本語教育コーディネーターは、講師の紹介のほか、学習プログラムや教室運営に関するご相談にも対応しています。教室の立ち上げや運営でお困りの際には是非ご相談ください。

(山形県日本語教育総括コーディネーター)

お問合せ

山形県多文化共生・国際交流推進課

© 023-630-2123 ☒ ykokusai@pref.yamagata.jp



文部科学省

令和7年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用